慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	戦国後期から江戸前期の大名の蔵書と文芸活動
Sub Title	The lords' personal library and literary activities in the Sengoku-Edo period.
Author	小川, 剛生(Ogawa, Takeo)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2019
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2018.)
JaLC DOI	
Abstract	4月、予備的研究として弘前藩第4代藩主の津軽信政（1646-1710）の蔵書と、東奥義塾高校図書館所蔵津軽家旧蔵書「御歌書」「三拾六人集」との関係を考察した。 7月、今川氏の文芸についての論文「戦国大名と和漢聯句」が刊行された。引き続いて今川義元の和漢聯句について研究を進め、「今川文化の歴史的意義—和漢聯句を視座として」と題して論文執筆した。これは『論集今川義元』（5月刊行予定）に掲載される。 8月30日-9月1日、熊本大学附属図書館・島原市立島原図書館で、熊本藩細川家と島原松平家の文芸資料の調査を行った。とくに江戸前期書写の歌書と連歌懐紙について重点的に調査した。 10月5日、大東急文庫にて「奥文庫」印のある古写本『古暦命期笠儀』を調査、天正13年書写の足利学校旧蔵書であり、信政の旧蔵書であることを確認した。 10月12日-13日、津軽信政を祭神とする高照神社の実地踏査、ついで高岡の森弘前藩歴史館にて、高照神社蔵史料と古典籍の書誌調査、とくに高照宮御遺鑑の詳しい考察を行った。 10月20日、東京大学文学部国語国文学研究室蔵の『万葉集』を調査した。この本が佐佐木信綱編『校本万葉集十』にて取り上げられた津軽伯爵蔵本であり、「奥文庫」印の年代について、通説より遅れ、享和年間より幕末安政年間にわたって、津軽家で使用されたとの見通しを持てた。 11月３日、弘前大学にて「大名の蔵書と学問—津軽信政の蔵書をめぐって」と題した講演を行い、津軽信政の蔵書とその学問の特色について考察した。 2月13日、弘前市立弘前図書館にて、津軽家文書および「奥文庫」印のある典籍を調査し、幕末から明治20年代にかけての典籍の扱いに関する史料を調査、撮影した。 3月、『調査集録』5号に、前年11月の講演「大名の蔵書と学問」の内容を論文として掲載した。高照宮御遺鑑巻46「御書物題号」の翻刻と考証を掲載し、津軽信政の蔵書形成について詳細に辿ることができるようにした。 In Japanese, you can understand the things written above more precisely.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2018000005-20180058

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2018 年度　学事振興資金（個人研究）研究成果実績報告書

2019 年 3 月 25 日

研究代表者	所属	文学部	職名	教授	補助額	200 （B）千円
	氏名	小川 剛生	氏名（英語）	Takeo Ogawa		

研究課題（日本語）

戦国後期から江戸前期の大名の蔵書と文芸活動

研究課題（英訳）

The lords' personal library and literary activities in the Sengoku-Edo period.

１．研究成果実績の概要

4 月、予備的研究として弘前藩第 4 代藩主の津軽信政（1646-1710）の蔵書と、東奥義塾高校図書館所蔵津軽家旧蔵書「御歌書」「三拾六人集」との関係を考察した。

7 月、今川氏の文芸についての論文「戦国大名と和漢聯句」が刊行された。引き続いて今川義元の和漢聯句について研究を進め、「今川文化の歴史的意義―和漢聯句を視座として」と題して論文執筆した。これは『論集　今川義元』（5 月刊行予定）に掲載される。

8 月 30 日-9 月 1 日、熊本大学附属図書館・島原市立島原図書館で、熊本藩細川家と島原松平家の文芸資料の調査を行った。とくに江戸前期書写の歌書と連歌懐紙について重点的に調査した。

10 月 5 日、大東急文庫にて「奥文庫」印のある古写本『古暦命期筮儀』を調査、天正 13 年書写の足利学校旧蔵書であり、信政の旧蔵書であることを確認した。

10 月 12 日-13 日、津軽信政を祭神とする高照神社の実地踏査、ついで高岡の森弘前藩歴史館にて、高照神社蔵史料と古典籍の書誌調査、とくに高照宮御遺鑑の詳しい考察を行った。

10 月 20 日、東京大学文学部国語国文学研究室蔵の『万葉集』を調査した。この本が佐佐木信綱編『校本万葉集　十』にて取り上げられた津軽伯爵蔵本であり、「奥文庫」印の年代について、通説より遅れ、享和年間より幕末安政年間にわたって、津軽家で使用されたとの見通しを持てた。

11 月３日、弘前大学にて「大名の蔵書と学問―津軽信政の蔵書をめぐって」と題した講演を行い、津軽信政の蔵書とその学問の特色について考察した。

2 月 13 日、弘前市立弘前図書館にて、津軽家文書および「奥文庫」印のある典籍を調査し、幕末から明治 20 年代にかけての典籍の扱いに関する史料を調査、撮影した。

3 月、『調査集録』5 号に、前年 11 月の講演「大名の蔵書と学問」の内容を論文として掲載した。高照宮御遺鑑巻 46「御書物題号」の翻刻と考証を掲載し、津軽信政の蔵書形成について詳細に辿ることができるようにした。

２．研究成果実績の概要（英訳）

In Japanese, you can understand the things written above more precisely.

３．本研究課題に関する発表

発表者氏名（著者・講演者）	発表課題名（著書名・演題）	発表学術誌名（著書発行所・講演学会）	学術誌発行年月（著書発行年月・講演年月）
小川剛生	論文「戦国大名と和漢聯句―駿河今川氏を中心に」	国語国文 87-7	2018 年 7 月
小川剛生	講演「大名の蔵書と学問―津軽信政の蔵書をめぐって」	弘前大学人文社会科学部国際公開講座 2018	2018 年 11 月 3 日
小川剛生	講演「後菟玖波集前後―後光厳天皇と二条良基」	俳文学会東京例会	2018 年 12 月 22 日
小川剛生	大名の蔵書と学問―津軽信政の蔵書をめぐって	東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録5	2019 年 3 月